MORESCO

第60期 報告書

平成29年3月1日～平成30年2月28日

The way forward

トップインタビュー

研究開発の強みを、さらに研ぎ澄ませて。

当社の業績に大きな影響を及ぼす原油・ナフサの価格は、昨年後半からじわじわと上昇傾向にありますが、大局的に見れば安値で推移し、比較的安定していた中で当社の第60期業績は、増収減益となりました。今期業績のプラス要因を挙げますと、まずは金属加工油、機能材の両事業部から自動車業界の顧客課題を解決する新製品が次々にリリースされ、競争優位に立てたことです。研究開発を強みとする我が社らしいビジネスが展開でき、今後にも弾みがつくのではないかと期待しています。ホットメルト事業部では、中国の環境汚染問題を背景とする空気清浄機のフィルター向け用途の需要の高まりに着目し、製品を提供したことが売上の伸びにつながりました。その一方でマイナスに働いた要因としては、昨今のSSDの台頭により、従来のHDDの需要が伸び悩み、当社の成長を支えてきたハードディスク表面潤滑剤の売上がスローダウンしたことなどが挙げられます。このほか、新しくスタートしたデバイス材料事業部はまだ事業規模は小さいものの、着実にお客様の評価を獲得しており、手応えを感じています。今後の世の中のフレキシブルデバイスの需要の高まりに乗じて、大きく伸ばしていきたいと考えています。来期以降につきましては、新たに策定した中期経営計画に基づき、自分たちの強みをさらに強化することで、全体のビジネスを活気づけていく予定です。今後のMORESCOにぜひご期待ください。

株式会社MORESCO
代表取締役会長 CEO 赤田 民生

MORESCOの近未来設計図

第８次中期経営計画（2018～2020年度）について

MORESCOの成長像を明確にし、一丸となって進んでいくために、第8次中期経営計画を策定しました。2018年度には1つの区切りである売上高300億円を突破し、続く2年間でさらに大きく伸ばしていくことを目指します。具体的な戦略としては、まず研究開発型企業として高付加価値製品の提供にこだわります。とくに機能材事業部は近年スローダウンしていましたが、顧客課題を解決する新製品のリリースにより今後の上昇が期待できます。また、より柔軟にビジネスストラテジーを描いていくために、M&Aや事業提携なども積極的に行っていく予定です。このような取り組みの中から10年後につながる次の事業の芽を育みたいと考えています。さらに海外においては、販売ネットワークをさらに充実させ、中国および北米市場の開拓をより積極的に狙っていきます。またインド進出ではよいスタートが切れるように万全の構えで臨みます。

中期経営方針

1 多様な技術を集積し、強みを活かす研究開発により、高付加価値製品でトップシェアを獲得する。

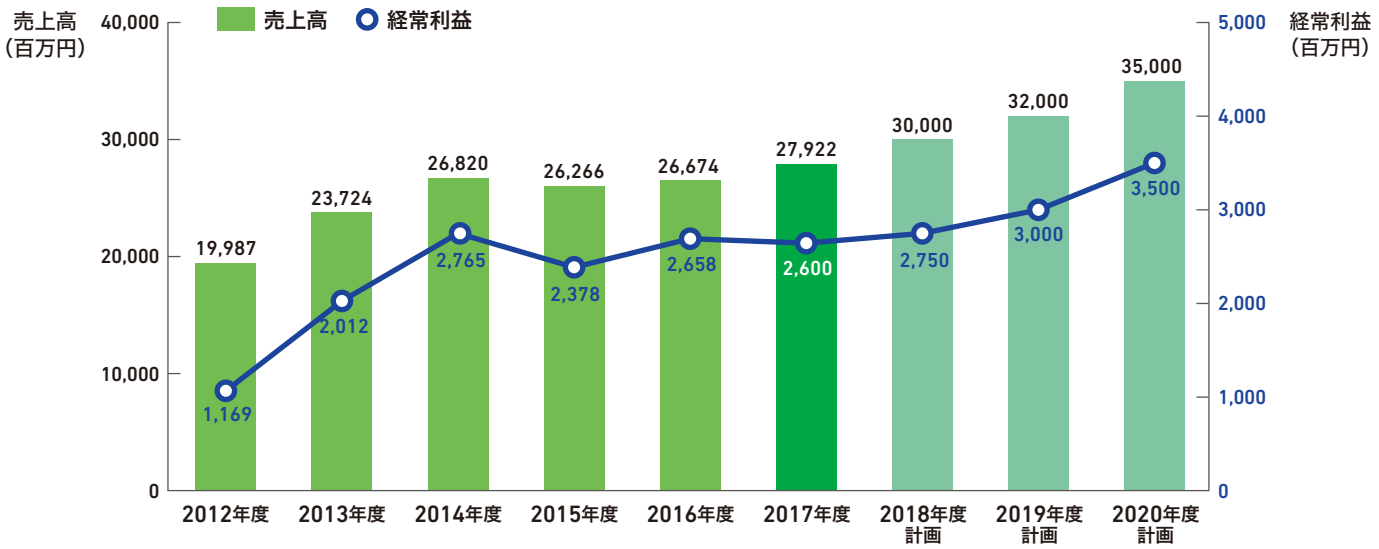
2 M&A、事業提携を活用し、新事業を創出する。

3 国内事業基盤をさらに充実させるとともに、成長する地域でのコア事業を強化する。

4 生産部門一人一人の意識改革により、品質の向上とコスト低減をすすめる。

5 コンプライアンス・リスクに対して高い意識をもち、ステークホルダーの信頼を高める。

直近の業績と第８次中期経営計画



より強いビジネスを展開するため、高付加価値製品を

生産設備を長寿命化させる
少量塗布の離型剤を提案

ダイカスト用離型剤とは、溶かした金属を高圧で金型に流し込んで固める鋳造工程（ダイカスト）において、成型物と金型の離型に必要な製品です。離型剤は水で希釈して使用することが一般的ですが、従来はその水分が金型を急冷することで、金型の劣化が進むデメリットがありました。MORESCOはこの課題に着目し、水で希釈せず原液を少量塗布することで効果を発揮する離型剤を開発。今後はこの製品により、お客様に金型の長寿命化と共に、離型剤の使用量を減らすことによるコスト削減をご提案していきます。

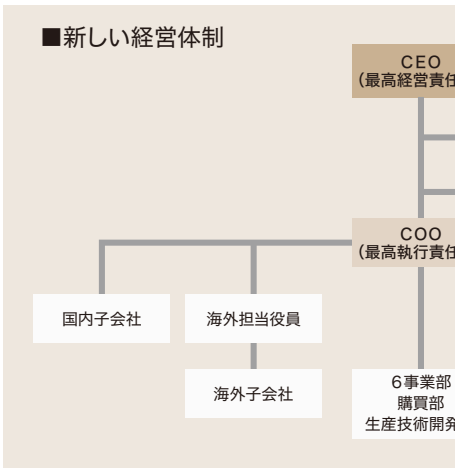
金属加工の課題を解決する
切削油剤を積極的に事業展開

金属部品などの切削加工工程では、泡の発生を抑えるために消泡剤が用いられますが、加工された部品に成分が付着し、持ち出されるため、従来は消泡剤の追加投入が必要でした。そこでMORESCOが考えたのが「泡立ちの少ない切削油剤」です。この製品により、消泡剤の使用を控え、製造コストを削減するご提案を行っていきます。また、切削油剤関連では航空機部品、自動車用ガラス、鍛造品用途の開拓、チタンやCFRPなど、新素材向けの製品、環境に配慮した製品の開発も積極的に推進していきます。

事業展開のスピードアップを目指し、担当役員制度に

MORESCOは、昨今のビジネス環境の変化の速さに対応し、中期経営計画をさらに力強く推進していくために、担当役員制度を導入し、大幅に経営体制を見直しました。これに伴い、現社長の赤田はCEO（最高経営責任者）となり、現取締役の両角がCOO（最高執行責任者）を務めることとなります。今後はこの下に、開発や財務などの目的別に担当役員を設けることで意思決定のスピードを早め、より有利にビジネスを進めていくことを目指します。

代表取締役会長 CEO 赤田 民生（写真左）
代表取締役社長 社長執行役員 COO 両角 元寿（写真右）

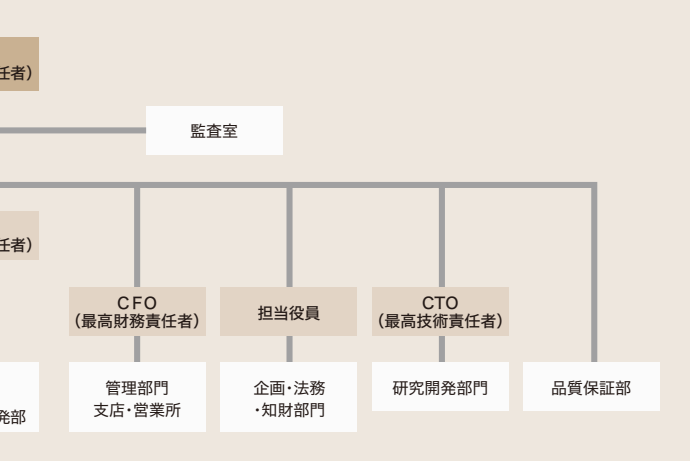


軸に事業を展開

医療産業都市の立地を生かす
メディカル材料プロジェクト推進

ポートアイランドは医療産業都市として、先端医療技術の研究開発拠点が集積しており、当社もその立地の良さを生かして医療分野に貢献するメディカル材料プロジェクトを推進しています。これは以前から合成潤滑油事業部で行われていた研究を独立させたもので、産学連携ネットワークを駆使して創薬支援を中心に行っていく考えです。具体的なテーマとしては現在のところ「細胞培養の新たな培地」、「薬物運送システム（DDS）」、「薬理活性物質」の3つを挙げ、これらの価値創出に向けて取り組んでいきます。

移行



MORESCO 年間トピックス

10月 海外代理店会議

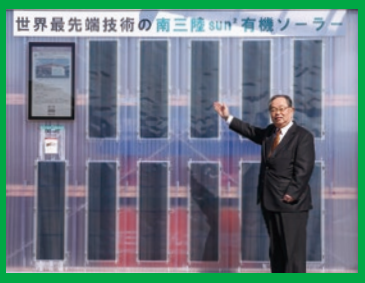
本社・研究センター等で第10回海外代理店会議を開催しました。参加いただいた12ヵ国34社との親睦を深める懇親会に加え、各事業部及びその油種の企画研修会も実施し、有意義な会となりました。

11月 高引火点流動パラフィンを販売開始

幅広い用途に用いられている弊社製品「流動パラフィン」に、新製品がラインナップ。引火点が260℃と高く、より安全性が高くなり、さまざまな用途で使用が可能です。

2月 「南三陸sun² 有機ソーラー」を開発

南三陸さんさん商店街と有志企業などとのコラボレーションにより、有機薄膜太陽電池「南三陸sun²有機ソーラー」を開発。今後はこの技術をより多くの用途に拡大していくことを目指します。



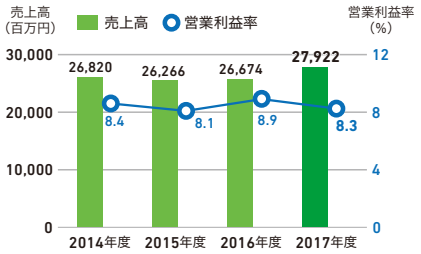
3月 「塑性加工油部」を立ち上げ

生産現場の環境改善に貢献する提案型製品「熱間鍛造潤滑剤」の販売強化を目的に、営業と開発を連携させた新部門を立ち上げ。世界の市場に対する戦略的なアプローチを推進していきます。

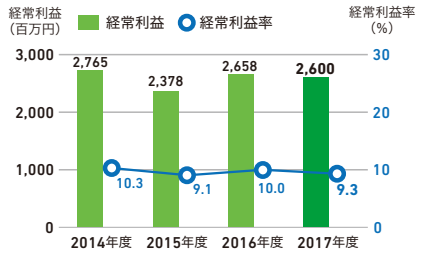
主な連結財務指標

当連結会計年度の売上高は27,922百万円(前期比4.7%増)となり、経常利益は2,600百万円(前期比2.2%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は1,623百万円(前期比1.4%増)となりました。

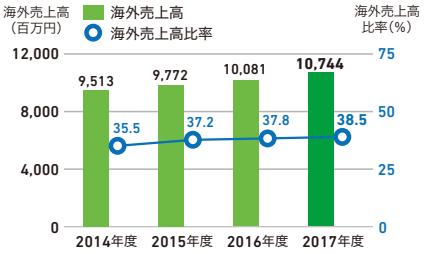
売上高と営業利益率



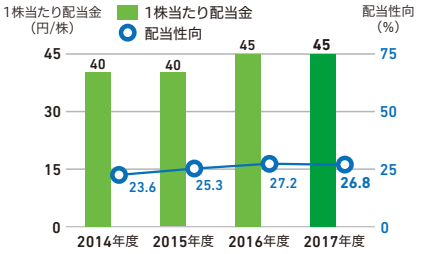
経常利益と経常利益率



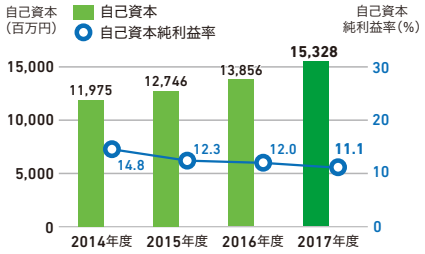
海外売上高と海外売上高比率



1株当たり配当金と配当性向



自己資本と自己資本純利益率(ROE)

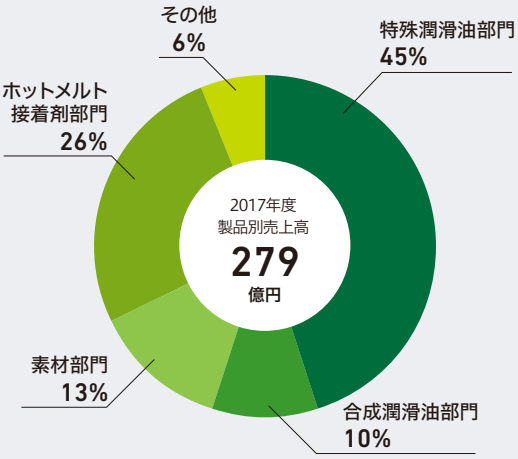


セグメント情報

製品別

各部門共に売上を増加させる一方 合成潤滑油部門がやや減速。

主力となる特殊潤滑油部門では、付加価値の高い新製品の投入などにより、売上を大きく伸ばすことができました。素材部門やホットメルト接着剤部門も売上を伸ばしています。



特殊潤滑油

ダイカスト用油剤、切削油剤、および難燃性作動液が新規顧客の獲得や高付加価値品の増販により好調に推移。

合成潤滑油

ハードディスク表面潤滑剤の売上が下期は低調に推移したことで、当セグメント全体では前期を下回る実績に。

素材

流動パラフィンの販売数量が堅調に推移したうえ、原材料価格上昇に伴う販売価格の改定で売上は前期以上に。

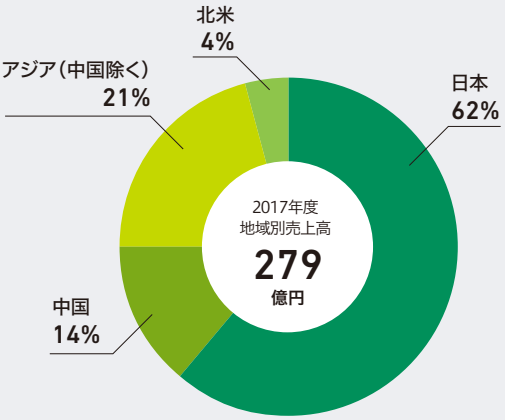
ホットメルト接着剤

国内では、主力の衛生材用途の売上が伸び悩んだものの、連結では前期を上回る実績に。

地域別

各エリア共に堅調に推移し、 中国がとくに大きく利益を拡大。

日本では、穏やかな回復基調が継続する中で当社事業は好調に推移し、前期の売上を上回る結果となりました。中国および東南・南アジアでは自動車生産台数が前期比プラスで推移し、自動車生産向け製品の売上は増加。中国ではホットメルト接着剤についても空気清浄機フィルター向けの売上が前期を大幅に上回りました。北米では主力のダイカスト用油剤の売上が前期並で推移したものの、人員増による人件費の増加や企業買収に係る費用で減益を余儀なくされました。



会社概要・株主情報

■会社概要（平成30年2月28日現在）

商号	株式会社MORESCO
設立	1958年10月27日
資本金	2,090,578,200円
従業員数	358名

●本社および事業所

本社・研究センター	神戸市中央区港島南町5丁目5-3 電話078-303-9010（代表）
支店	東京支店／大阪支店
営業所	名古屋営業所
工場	千葉工場／赤穂工場

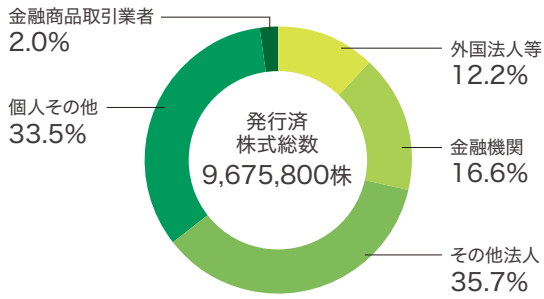
■役員構成（平成30年5月30日現在）

代表取締役会長 CEO	赤田民生
代表取締役社長 社長執行役員 COO	両角元寿
取締役 専務執行役員 CFO	竹内隆
取締役 常務執行役員 経営戦略担当	宮川弘和
取締役 上席執行役員 海外担当	瀬脇信寛
取締役 上席執行役員 CTO	坂根康夫
取締役	浅野応孝
取締役	リ・ジュ・ジュディ・リン
取締役	出口侑宏
常勤監査役	作田真一
監査役	冨野武
監査役	小沢史比古
監査役	長谷川克博

■株式の状況（平成30年2月28日現在）

発行可能株式総数……20,000,000株
発行済株式総数……9,675,800株
株主数……12,251名

●株式所有者別分布状況



●大株主

株主名	持株数	株主比率
松村石油（株）	1,067,000	11.0%
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE-HCR00	671,700	6.9%
コスモ石油ルブリカンツ（株）	503,000	5.2%
日本曹達（株）	365,000	3.8%
MORESCO従業員持株会	340,920	3.5%
三菱商事（株）	327,000	3.4%
双日（株）	327,000	3.4%
日本トラスティ・サービス信託銀行（株）（信託口）	300,500	3.1%
（株）みずほ銀行	250,000	2.6%
（株）三菱UFJ銀行	250,000	2.6%

持株比率は自己株式（648株）を控除して計算しております。

株主メモ

■事業年度
3月1日～翌年2月末日

■期末配当金受領株主確定日
2月末日

■中間配当金受領株主確定日
（中間配当を行う場合）
8月31日

■定時株主総会
毎年5月

■株主名簿管理人および
特別口座の口座管理機関
三菱UFJ信託銀行株式会社

■同連絡先
三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町
三丁目6番3号
TEL：0120−094−777（通話料無料）

■上場証券取引所
東京証券取引所

公告の方法

電子公告により行う
公告記載URL
http://www.moresco.co.jp/
（ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に公告いたします。）

【ご注意】
◎株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。
株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
◎特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合わせください。なお三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取り次ぎいたします。
◎未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。